



おおやもり ひさ
大山盛久議員

有害鳥獣駆除対策

を問う

議員 笠岡市における鳥獣駆除対策について、市全体の課題と対策についてたずねる。

産業部長 市全体の課題は、鳥獣被害対策の3本柱である野生鳥獣を近づけにくくする環境整備、侵入防止柵の設置、捕獲について、住民の皆様十分に周知できていないことにあると考えている。イノシシは多産多死という生態を持つており、環境整備や侵入防止柵の設置が不十分であると、淘汰されにくい状態をつくってしまい、捕獲を行っても根本的な被害軽減には繋がりにくいと考える。市民の皆様、環境整備、侵入防止柵の設置、捕獲の3つの対策の周知をしっかりと行い、地域ぐるみで一体的に推進していきたいと考えている。



市民病院の現状を問う

議員 この問題は他の議員から何度となく質問されているが、現状を踏まえて、今後の方向性をたずねる。

市長 現在の市民病院の概要について、内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科など13の診療科目がある。資金不足の状況は深刻であり、改善を求められている。今後は、寄附講座による総合内科診療の確保、近隣病院や開業医との地域連携の強化、病棟の再編、施設基準の見直し、委託料の見直しや購入物品の見直し、人件費の削減など、考えられることは全て行い、不転の覚悟で経営改善を行う。



やまもと としあき
山本俊明議員

中心市街地の今後を問う

議員 長い間笠岡市を代表する、割烹旅館三洋が消えたこと側聞した。三洋は、市民が安心してお客さまを案内できる割烹旅館であったと思う。笠岡市を支えた中心市街地の商店が、次々と消えてゆくこの状況を、このまま流れに任せるのか、それとも再生を考えるのか。市長の考える中心市街地の姿をたずねる。

市長 笠岡駅を中心とする市街地の活性化が喫緊の課題となっている。再び賑わいのある町が創出できるよう努めていかなければならないと考えている。現在、立地適正化計画において、医療・福祉・商業等都市機能を町の中心拠点等に誘導することにより、都市機能位置づける方向で検討している。



幼保再編・小中学校規模適正における地域との絆は

議員 笠岡市就学前教育・保育施設の再編、笠岡市立小中学校規模の適正によって学区が広くなり、地縁的なつながりが希薄化し、家族や地域との絆が弱まってくる。様々な経験から学ぶ、社会性や人間関係を作り上げるのが難しくなる。教育委員会として今後どのようにに対応するのかたずねる。

教育長 子どもたちは地域に住み続けることから、まちづくり協議会や公民館等が主催する地域行事等に参加し、地域の方々と交流することが可能だと考えている。子ども園の行事に地域の皆さまの協力をいただき、積極的に交流の場を作っていく。小中一貫教育の中で地域学を位置づけ、地域で学び育てるシステムを前提にしている。